

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター西尾市立白ばら園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月29日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種(作業療法士、言語聴覚士、心理士、保育士)の職員が支援にあたっている。	支援内容に合わせて児童発達管理責任者が訪問員を決定し、利用児の発達や特性を踏まえた支援を行っている。	今後も専門性を活かし、アセスメントを丁寧に取りながら支援内容を工夫していく。
2	必要に応じて訪問員が互いに連携することで、支援内容の充実を図ることができる。	各訪問員が必要に応じて連携することで支援内容の見直しを図ったり、訪問先や保護者のニーズに合わせた取り組みを行ったりすることができる。	訪問員は基本ワーカー固定だが、必要に応じて柔軟な対応ができる体制を整える。
3	同施設内の相談支援事業所や他相談支援事業所との連携を行ったり、市内の保育所等訪問支援を行っている事業所との情報交換会を行ったりしている。	利用者が訪問を希望される経緯等の十分な把握に努め、寄り添うことができるようしている。児童発達支援管理責任者とは情報交換会以外にも適宜情報共有をしながらよりよい支援を行えるようにしている。	利用者へ報告する際には、相談支援専門員も参加する等連携を取ることで支援がスムーズに行えるようにする。今後も近隣の保育所等訪問支援を行っている施設の児童発達支援管理責任者との情報交換を行うとともに、訪問員も参加しての情報交換の機会も検討し学び合えるとよい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ホームページ等で保育所等訪問支援の情報についての周知ができていなかった。	白ばら園や市役所、相談支援事業所等に白ばら園が行っている保育所等訪問支援の支援内容を示したリーフレットを常時手に取れるように置いておいたが、ホームページにも同じリーフレットを掲載することでさらに周知できると考える。	ホームページで保育所等訪問支援の支援内容に関する情報を伝える。
2	丁寧にアセスメントを取ってからの個別支援会議や初回訪問となるので、開始までに時間を要する場合がある。	訪問員が兼務のため、アセスメントを取る時間や訪問日の調節に苦慮することがある。	ケースに合わせて対応できる体制作りを訪問員と検討していく。
3			